

## 大会日程

9:30 ~ 大会受付

	会場	講堂	ポスター会場	研修室
	時間	(本会場)		
12 月 1 日 (土)	10:00~12:00	評議員会	ポスター掲示	休憩室
	12:00~13:00	休憩		
	13:00~14:00	口頭発表1		
	14:00~14:15	休憩		
	14:15~16:00	公開シンポジウム		
	16:00~17:00	総会・学会賞授与式		
	18:00~20:00	懇親会(ホテルニューイタヤ:宇都宮市大通り2丁目4番6号)		
12 月 2 日 (日)	9:30~11:00		ポスター発表 コアタイム	同定会
	11:00~12:00	口頭発表2	ポスター掲示	休憩室
	12:00~13:00	休憩		
	13:00~15:00	口頭発表3		
	15:10~16:10	水生甲虫+雑甲虫 分科会		ゴミムシ分科会
	16:20~17:20	カミキリムシ分科会		ハネカクシ+ゾウムシ 分科会

※時間、会場については変更になる場合がありますので、当日の案内にご注意ください。

※ポスターは、2日目15:00までに片付けをお願いします。

## 交通案内



### ◆大会会場へのアクセス

会場へのアクセス：会場となる栃木県立博物館は、宇都宮市中心部のやや西方、中央公園内にあります。JR 宇都宮駅、東武宇都宮駅からバスの便があります。最寄りのバス停は、「中央公園博物館前」または「文星芸大附属中高」または「睦町」となります。タクシーで向かわれる場合には、JR 駅から 15 分、1,000 円ほどになります。くわしくは、大会 HP (<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/event/taikai/taikai2018.html#symposium>) または、栃木県立博物館ホームページ (<http://www.muse.pref.tochigi.lg.jp/access/index.html>) に掲載されていますので、こちらを参考にしてください。

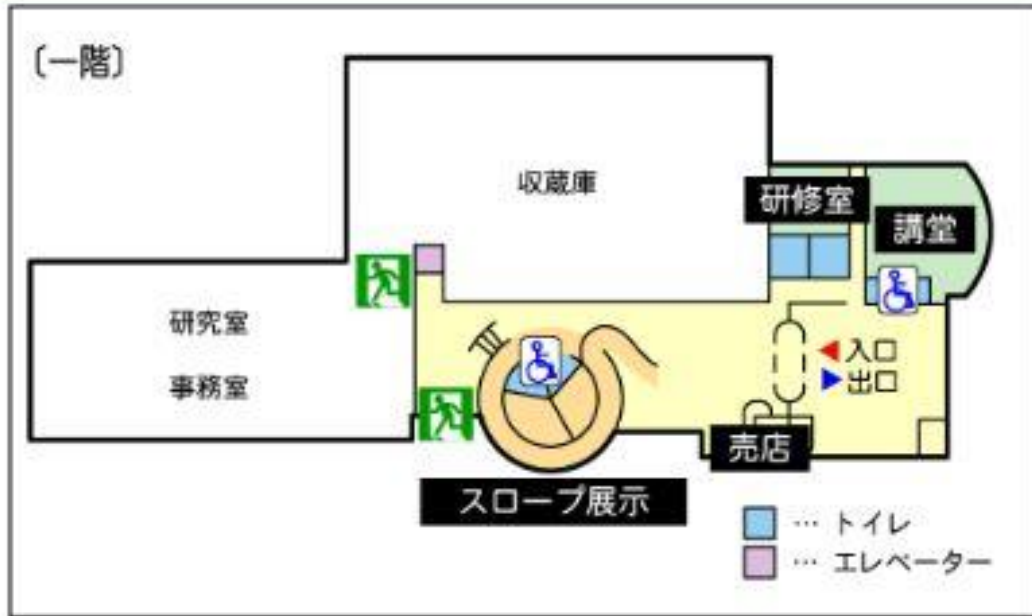
※なるべく公共交通機関でご来館ください。博物館北側駐車場は、新収蔵庫建築工事のため 11 月中旬ごろから使用できなくなる見込みです。自家用車をご利用の際は、近隣の有料駐車場等をご利用ください。なお、駐車場の案内は致しかねますので、ご了承ください。



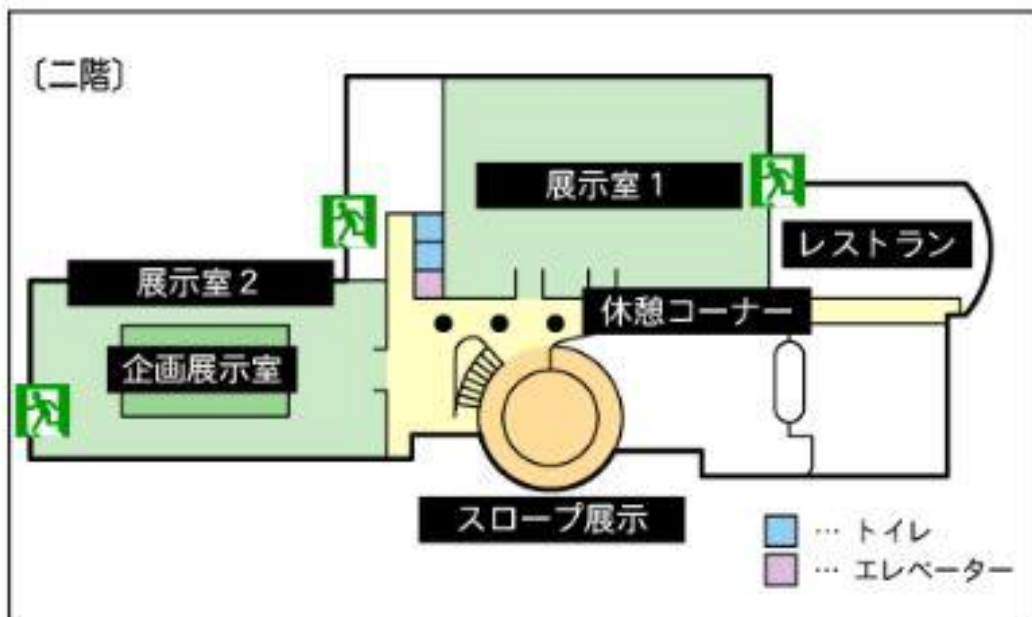
(大会 HP)

# 会場案内

## 1階



## 2階



## 連絡事項

### <受付>

- ・12月1日（土）の9:30から会場入口付近で受付を始めます。大会参加費と懇親会費をお支払いください。甲虫学会年会費の受付もいたします。

#### 大会参加費

##### ○大会参加費（11月1日以降のお申し込みの方）

一般3,000円（10/31までにお申し込みの方2,000円）

学生2,000円（10/31までにお申し込みの方1,000円）

高校生以下は無料（ただし要旨集・入館料などは実費を申し受けます）。

##### ○懇親会費：7,000円

※懇親会の学生割引、早期割引はありません。

### <名札>

- ・受付で名札をお受け取りください。会場では常に名札を着用してくださるようお願いいたします。名札ケースは、大会終了後受付へお返してください。

### <館内の見学>

- ・大会参加者の方は、栃木県立博物館の常設展をご自由にご見学いただけます。展示室内（有料エリア）へご入場（再入場）の際は、は名札を必ずご着用、ご提示してご入場ください。

### <昼食>

- ・会場の近隣には博物館レストラン（定員約30名）や五右衛門、ジョイフル等の飲食店、セブンイレブン、ヤオハン（スーパー）がございますが、当日はかなり混雑することが予想されます。
- ・会場では、研修室と博物館レストランの脇のスペース（飲食可の掲示あり）のみ、飲食が可能です。講堂は飲食禁止となっております。

### <懇親会場 位置・大会会場からの経路>

- ・懇親会場のホテルニューイタヤは、JR宇都宮駅西口から大通り沿いに、徒歩5分ほどの位置にあります。最寄りのバス停は上河原です。
- ・1日目のプログラムが17:00頃終了後、博物館の近くからホテルのマイクロバスなどで送迎の予定です。

### <宿泊>

- ・実行委員会では宿泊の斡旋は致しません。博物館の周辺には、ホテル等の宿泊施設がありませんので、JR宇都宮駅および東武宇都宮駅の周辺で探していただけるのが、博物館へのアクセスが便利です。

### <口頭講演発表>

- ・口頭発表は質疑を含めて15分です(1 鈴10分, 2 鈴12分, 3 鈴15分終了)。
- ・原則としてご持参のPCを会場のプロジェクターに接続する方法でご使用ください。プロジェクターへの接続はVGA端子(15ピン)のみです。MacやHDMI使用の場合には対応アダプタを必ず持参ください。
- ・会場にもPC(Windows, Office 2013か2010)を準備しますので、そちらを使用する場合には、使用できるパワーポイントなどのファイルをUSBメモリなどでお持ちください。
- ・各セッションの最初の発表以外、口頭発表を終えられた方は次の発表の座長をご担当ください。

### <ポスター講演発表>

- ・ポスターは幅90cm, 高さ180cmの枠内に収まるようご準備ください。
- ・1日目から掲示可能ですが、2日目午前のコアタイム中(9:30~11:00)には、必ず掲示の上、来場者への説明、質疑応答ができるようにご準備ください。ポスターの郵送をご希望の際は、11月27日(火)までにお送りください。掲示は原則、発表者が当日に行ってください。
- ・ポスターの撤去は、12月2日15:00までの時間をお願いします。

### <分科会>

- ・今回の大会では、会場の都合上、分科会を变則で開催せざるを得ないため、ご不便をおかけすることになり誠に申し訳ありませんが、どうかあしからずご了承ください。
- ・今回、例年の開催実績から、6分科会(雑甲虫, ゴミムシ, 水生甲虫, ハネカクシ, カミキリ, ゾウムシ)のみを実施し、新規の募集は致しません。開催プログラムにつきましては、実行委員会にて調整の上、ホームページに掲載および当日会場での掲示にて参加者にお知らせします。各分科会の世話人の方々には、実行委員会とご相談の上、実施いただけるよう、お願いいたします。各会場にプロジェクターは準備しますが、PCは原則演者か世話人の方でご準備いただき、接続するようにしてください。

### <同定会>

- ・各甲虫群の専門家がその場で甲虫標本の同定を行います。会場が混雑する恐れがありますので、お詰め合わせの上、ご参加下さい。
  - ・同定対象の標本は、データラベルの付いた甲虫類に限らせていただきます(タトウなどマウントされていない標本は不可)。なお、標本はご自身で整理し、できるだけ図鑑などで名前を調べた上で、分からなかったものだけをお持ちいただき、多量のお持ち込みはご遠慮ください。
  - ・大会に参加される甲虫学会会員のみなさまには、講師として広くご協力をお願いいたします。
- ※講師各位は、同定ラベルと筆記用具を持参ねがいます。

### <休憩室>

- ・会場内は休憩室を含めてすべて禁煙です。喫煙は、館外のきめられた喫煙場所をお願いします。

## 会合案内

【評議員会】 12月1日(土) 10:00~12:00 (講堂)

【総会・学会賞授与式・受賞講演】 12月1日(土) 16:00~17:00 (講堂)

【懇親会】 12月1日(土) 18:00 ~ 20:00 (ホテルニューイタヤ)

【同定会】 12月2日(日) 9:30 ~ 11:00 (研修室)

【公開シンポジウム】 12月1日(土) 14:15~16:00 (講堂)

「特定外来生物クビアカツヤカミキリの日本への侵入と現状」

- S-1. ○岩田隆太郎：クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* の現状：その分布・生態・防除法
- S-2. ○加賀谷悦子：クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* の侵入とその対策
- S-3. ○栗原 隆：栃木県におけるクビアカツヤカミキリの現状

【口頭発表1】 12月1日(土) 13:00~14:00

- O1-1. ○野村周平：ミャンマー・テナセリムのアリヅカムシ相をめぐって
- O1-2. ○田中敏明：鮮新世後期の兜岩産甲虫化石と古気候
- O1-3. ○朱雪姣・馬涛・温秀軍・久保田耕平：核遺伝子とミトコンドリア遺伝子にもとづいた東アジアにおけるルリクワガタ属の遺伝的分化 (III)
- O1-4. ○元永 学：オオズウミハネカクシの分布と生態的知見

【口頭発表2】 12月2日(日) 11:00~12:00

- O2-1. ○蓑島悠介：日本産ヒラタガムシ属の問題児
- O2-2. ○林 成多・大庭伸也：ケンゲンゴロウ幼虫はカイミジンコを効率的に捕食する
- O2-3. ○韓 昌道：トラカミキリの触角にみられる「棘」に関する考察
- O2-4. ○瑤寺 裕：オキナワツマキヒラタチビタマムシは本当に独立種なのか？

【口頭発表3】 12月2日(日) 13:00~15:00

- O3-1. ○吉田一樹：日本及び台湾産セスジムシ属 *Orthoglymmius* 亜属 (セスジムシ科) の分類学的再検討
- O3-2. ○浅川大喜・吉富博之：台湾と日本のセダカコクヌスト属 (*Thymalus*) の分類学的検討 (コウチュウ目, コクヌスト科)
- O3-3. ○和田 薫：ヨツバコガネ属(コガネムシ科)の形態形質による系統分類学的研究
- O3-4. ○中田勝之：石川県白山の特別保護地区内の好蟻性アリヅカムシ類の分布記録
- O3-5. ○有本晃一・堤内雄二：洞窟内で生活史を完結するコメツキムシの未記載種

- O3-6. WU YA JIAO・○荒谷邦雄・細谷忠嗣・楠見淳子：日本産オニクワガタ属の分類学的再検討
- O3-7. ○井上翔太・丸山宗利・野村周平：日本産ヒゲカタアリヅカムシ属 *Tmesiphorus* (コウチュウ目：ハネカクシ科：アリヅカムシ亜科) の分類学的再検討
- O3-8. ○岸本年郎：伊豆諸島御蔵島におけるアバタコバネハネカクシ属 *Nazeris* の固有種の発見

**【ポスター発表】 <コアタイム：12月2日（日） 9：30～11：00>**

- P-1. ○初宿成彦・大阪市立自然史博物館外来生物調査プロジェクト (Project A)：日本における外来甲虫史
- P-2. ○樋口裕美子・川北 篤：寄主植物の葉の切れ込みはムツモンオトシブミの揺籃形成を阻害するか？
- P-3. ○村田真一・平岡礼鳥・西原昇吾・苅部治紀・北野 忠：国内希少野生動植物種マルコガタノゲンゴロウを対象とした環境DNA分析による検出の試み
- P-4. ○福谷愉海・岸本年郎・笠井 敦：植食性コガネムシの増減と繁殖干渉：在来コガネムシが減り、アオドウガネが増えた理由にせまる
- P-5. ○邱 見玥・許 浩：Methods for catching immature flower beetles (Coleoptera: Scarabaeidae: Cetoniinae) in China

**【分科会第I部】：12月2日（日）15：10～16：10**

**分科会 1. 水生甲虫+雑甲虫分科会**（世話人：吉富博之・生川展行）【講 堂】

- Q1-1. ○吉富博之：日本産チビドロムシ科の分類の現状
- Q1-2. ○生川展行：ミスジホソカタムシについて
- Q1-3. ○十川晃一・吉富博之：海外産日本産テントウダマシ科の分類の現状

**分科会 2. ゴミムシ分科会**（世話人：森田誠司）【研修室】

- Q2-1. ○内田脩太：主に夜間の直接観察により得られたゴミムシ類の生態に関する知見

**【分科会第II部】：12月2日（日）16：20～17：20**

**分科会 3. カミキリムシ分科会**（世話人：山迫淳介）【講堂】

- Q3-1. ○大林延夫・山迫淳介：サイトウカミキリ *Peithona prionoides* Gehan の話題
- Q3-2. ○山迫淳介：*Agelasta (Dissosira)*の分子系統解析

**分科会 4. ハネカクシ+ゾウムシ分科会**（世話人：野村周平・的場績）【研修室】

- Q4-1. ○岸本年郎・小島弘昭：伊豆諸島のハネカクシ相とゾウムシ相の特徴
- Q4-2. ○野村周平：東京港野鳥公園（東京都大田区）における土壌性ハネカクシおよびゾウムシ相—特に国立科学博物館附属自然教育園（港区白金）との比較
- Q4-3. ○井上品次：電顕で見たゾウムシ類の足の裏